



2023年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年2月8日

上場会社名 ダイワボウホールディングス株式会社
 コード番号 3107 URL <https://www.daiwabo-holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西村 幸浩
 問合せ先責任者 (役職名) 財務管理室長 (氏名) 花岡 博之
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 06-7739-7300

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	637,610	18.3	17,774	19.5	18,209	20.9	12,398	18.3
2022年3月期第3四半期	539,068		14,877	29.8	15,066	30.3	10,478	36.0

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 10,224百万円 (3.2%) 2022年3月期第3四半期 10,557百万円 (38.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	131.67	
2022年3月期第3四半期	109.78	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期の各数値については、当該会計基準等を適用後の数値となっております。また当該会計基準等の適用により、売上高に大きな影響が生じたため、2022年3月期第3四半期売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。なお、2021年3月期に当該会計基準等を適用したと仮定して算定した増減率は18.4%減であります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	390,845	137,695	35.0
2022年3月期	356,203	136,173	38.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 136,710百万円 2022年3月期 135,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		30.00		30.00	60.00
2023年3月期		30.00			
2023年3月期(予想)				32.00	62.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	880,000	15.2	27,500	14.3	27,900	13.6	19,000	11.8	201.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	96,356,460 株	2022年3月期	96,356,460 株
期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,892,435 株	2022年3月期	1,253,110 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	94,165,501 株	2022年3月期3Q	95,455,545 株

(注) 自己株式数には、「役員報酬BIP信託口」の所有する当社株式が含まれております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動が徐々に正常化することで緩やかな景気回復が見られたものの、急速な為替の変動、原材料やエネルギーコストの高騰も継続しており景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況において、当社グループは第111期からスタートさせた中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）において、本計画の対象期間を「将来にわたる発展を見据えた転換期」と捉え、グループ基本方針として「次世代成長ドライバーの創出」「リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献」「経営基盤変革」を掲げ、次なる時代に向けた成長戦略と事業を通じた社会貢献の実践による企業価値の向上に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は637,610百万円（前年同期比18.3%増）、営業利益は17,774百万円（前年同期比19.5%増）、経常利益は18,209百万円（前年同期比20.9%増）となりました。これに特別利益として固定資産売却益26百万円、投資有価証券売却益25百万円、その他6百万円、特別損失として固定資産除却損44百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は12,398百万円（前年同期比18.3%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(ITインフラ流通事業)

コーポレート向け市場では、全国の営業拠点において、新型コロナウイルス感染症への対策に万全を期し、対面とテレワークを柔軟に組み合わせた地域密着営業を推し進めました。円安による仕入原価上昇の影響を受けたものの、半導体不足による納期遅延は徐々に解消されつつあり、企業向けの大型案件をはじめ、官公庁・文教分野向けでも安定的に受注を獲得することができ、PCやネットワーク機器を中心に前年を上回る実績となりました。また、サブスクリプション管理ポータルサイト「iKAZUCHI（雷）」を通じたサブスクリプション製品の契約数は増加し、ソフトウェアを中心としたクラウドサービスも好調に推移しました。文教市場においては高校向け生徒用端末や小中学校の教職員端末案件が好調に推移しました。

コンシューマ向け市場では、EC向け販売に苦戦しましたが、量販店向けでPCや新規商材の販売が増加したことにより、全体としては前年を上回る実績となりました。

以上の結果、当事業の売上高は582,817百万円（前年同期比20.1%増）、営業利益は16,270百万円（前年同期比25.3%増）となりました。

(繊維事業)

合繊・レーヨン部門では、円安の影響による合繊原綿の輸出増加と、海外向け難燃レーヨン素材のアジア各地での採用により売上は堅調に推移しましたが、原燃料価格高騰によるコストアップの影響を受け利益面では苦戦を強いられました。産業資材部門では、旺盛な建築需要の影響を受けた建築シートの受注が好調で、収益が改善しました。衣料製品部門では、国内アパレルの受注は増加したものの、米国向け販売の減速やコスト上昇により減益となりました。

以上の結果、当事業の売上高は45,713百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は786百万円（前年同期比43.6%減）となりました。

(産業機械事業)

工作機械部門では、風力発電や高効率ガスタービンで需要があるエネルギー業界、世界的な半導体不足で増産対応を図った半導体業界に加え、建設機械、医療機器などを含めた幅広い業界向けで売上高が増加しました。受注面では中国市場で風力発電向けの受注が継続したこともあり活況となりました。自動機械部門では、前年同期比で本体の出荷台数が減少しました。

以上の結果、当事業の売上高は8,527百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益は603百万円（前年同期比70.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金や商品及び製品の増加等により前連結会計年度末に比べて34,641百万円増加し390,845百万円となりました。また、負債は、支払手形及び買掛金の増加等により前連結会計年度末に比べて33,119百万円増加し253,150百万円となり、純資産は、利益剰余金の増加等により前連結会計年度末に比べて1,521百万円増加し137,695百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、直近の業績等を勘案し、2022年5月12日に公表しました連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2023年2月8日)公表いたしました「通期業績予想の上方修正及び配当予想修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	46,963	49,817
受取手形及び売掛金	202,408	216,630
商品及び製品	38,478	52,983
仕掛品	3,053	3,584
原材料及び貯蔵品	2,059	2,116
その他	11,467	12,462
貸倒引当金	△297	△151
流動資産合計	304,134	337,442
固定資産		
有形固定資産		
土地	18,385	18,460
その他(純額)	19,886	19,738
有形固定資産合計	38,272	38,198
無形固定資産		
その他	2,462	2,165
無形固定資産合計	2,462	2,165
投資その他の資産		
その他	11,460	13,100
貸倒引当金	△126	△61
投資その他の資産合計	11,333	13,038
固定資産合計	52,068	53,402
資産合計	356,203	390,845

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	161,859	187,907
短期借入金	12,589	14,954
未払法人税等	727	2,231
賞与引当金	2,476	1,349
その他の引当金	324	246
その他	13,587	16,881
流動負債合計	191,564	223,568
固定負債		
長期借入金	14,895	11,989
退職給付に係る負債	6,677	10,571
その他	6,893	7,020
固定負債合計	28,465	29,581
負債合計	220,030	253,150
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,696	21,696
資本剰余金	7,937	7,951
利益剰余金	106,053	112,788
自己株式	△2,123	△5,137
株主資本合計	133,564	137,298
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,499	1,630
繰延ヘッジ損益	325	△461
為替換算調整勘定	△748	296
退職給付に係る調整累計額	615	△2,053
その他の包括利益累計額合計	1,691	△588
非支配株主持分	917	984
純資産合計	136,173	137,695
負債純資産合計	356,203	390,845

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	539,068	637,610
売上原価	494,385	588,699
売上総利益	44,682	48,910
販売費及び一般管理費	29,805	31,136
営業利益	14,877	17,774
営業外収益		
受取利息	16	27
受取配当金	143	162
販売支援金	210	239
持分法による投資利益	27	113
その他	188	207
営業外収益合計	585	750
営業外費用		
支払利息	125	118
その他	271	197
営業外費用合計	397	316
経常利益	15,066	18,209
特別利益		
固定資産売却益	—	26
投資有価証券売却益	319	25
その他	23	6
特別利益合計	342	58
特別損失		
固定資産除却損	40	44
その他	11	—
特別損失合計	51	44
税金等調整前四半期純利益	15,357	18,223
法人税、住民税及び事業税	3,072	5,291
法人税等調整額	1,789	506
法人税等合計	4,861	5,797
四半期純利益	10,496	12,425
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,478	12,398

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	10,496	12,425
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△215	128
繰延ヘッジ損益	△111	△787
為替換算調整勘定	380	1,003
退職給付に係る調整額	△41	△2,668
持分法適用会社に対する持分相当額	48	123
その他の包括利益合計	61	△2,201
四半期包括利益	10,557	10,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,503	10,118
非支配株主に係る四半期包括利益	54	106

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年5月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,639,000株の取得を行いました。また、業績連動型株式報酬制度への抛出に伴い、2022年11月9日開催の取締役会決議に基づき、2022年12月1日付で自己株式116,400株の処分を行いました。これらの取得等により、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が13百万円、自己株式が3,013百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が7,951百万円、自己株式が5,137百万円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第3四半期連結累計期間におきまして、前事業年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定に重要な変更はありません。

(退職金に関する規程等の改定)

当社の連結子会社であるダイワボウ情報システム株式会社及び、ディーアイエスサービス&ソリューション株式会社は、2022年3月17日開催の取締役会において、同社退職金規程および確定給付企業年金規約を一部改訂することを決議し、2022年10月1日付けで施行いたしました。本制度改訂に伴い退職給付債務が3,949百万円増加いたします。この退職給付債務の増加は過去勤務費用に該当するため、同2社の定める会計方針に従い、5年にわたり定額法で費用処理しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ITイン フラ流通 事業	繊維事業	産業機械 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	485,355	43,446	7,827	536,629	2,439	539,068	—	539,068
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	183	167	—	350	801	1,152	△1,152	—
計	485,538	43,613	7,827	536,979	3,240	540,220	△1,152	539,068
セグメント利益	12,981	1,394	354	14,729	144	14,874	3	14,877

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業及びエンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ITイン フラ流通 事業	繊維事業	産業機械 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	582,817	45,713	8,527	637,058	551	637,610	—	637,610
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	161	13	—	175	248	423	△423	—
計	582,978	45,726	8,527	637,233	800	638,033	△423	637,610
セグメント利益	16,270	786	603	17,659	81	17,741	33	17,774

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理店業及びエンジニアリング業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。